

職場における性差羨望尺度作成の試み

長尾 博

A Study on Envy Scale of Gender Differences during Place of Work

Hiroshi Nagao

本研究は、職場における男女共同参画の実現に役立つ性差羨望尺度を作成することを目的とした。研究Ⅰにおいて男性74名と女性58名（2つの銀行と1つの工場の就労者）に対して性差羨望尺度（女性の男性への良性羨望尺度と男性の女性への注意すべき羨望尺度）を実施した。因子分析の結果、12項目からなる女性の良性羨望尺度は2因子（向上動機と切望）が、一方、12項目からなる男性の注意すべき羨望尺度は2因子（批判と劣等感の挑発）が抽出された。この2つの尺度の信頼性は、クロンバックの信頼性係数から検証された。研究Ⅱにおいては、次の2点から女性の良性羨望尺度の内容的妥当性を検証していった。専業主婦58名と就労女性43名（教師、営業員、事務員）との良性羨望尺度得点の比較結果から、就労女性のほうが専業主婦よりも男性への良性羨望が強いことが明らかにされた。次に研究Ⅱの結果をもとに良性羨望尺度得点が高得点の者（8名）と低得点の者（7名）に言語連想法を実施してフロイドのいうペニス羨望の有無の検証を行った。その結果、明確なペニス羨望の存在の根拠は示されなかった。本研究から作成された性差羨望尺度が、職場での男女共同参画の評定に活かされることが示唆された。

The purpose of this study was to construct the envy scale of gender differences to contribute toward realization of the equal society of both sexes during place of work. In study I, 74 male and 58 female employees (2 banks and 1 factory) completed a measure assessing the envy of gender differences (female benign envy of male and male malicious envy of female). As a result of the factor analysis, female benign envy scale consisted 12 items was found 2 factors (i.e. the desire to improvement and the longing for male), while male malicious envy scale consisted 12 items was found 2 factors (i.e. criticism and provocation to sense of inferiority). The reliability of these scales was examined through using Cronbach's coefficient. Consequently, these scales' reliability was verified. In study II, 2 following content validities of female benign envy scale were clarified. As a result of the comparison with 58 housewives and 43 career women (teachers, saleswomen, and office workers) concerning scores of female benign envy scale, the career women were found to have the stronger benign envy of male than the housewives. Next, the word association was administered to the high score group ($n=8$) and the low score group ($n=7$) as according the results of study II in order to prove to exist Freud's penis envy. In result, there was not definite evidence of existence of Freud's penis envy in women's mind. These results suggested that the envy scale of gender differences would make use of evaluation of the equal level of both sexes during place of work.

Keywords; gender differences, envy scale, equal society of both sexes, penis envy

[問題と目的]

男女平等（男女共同参画）社会とは、とくに女性の貧困、女性に対する暴力、職業上の差別をなくし、女性の性と生殖に関する健康と権利を確立していくことをいう（第4回世界女性会議、1995）。しかし、わが国では男女平等の度合いをみるGGI（gender gap index）は、134カ国中で101位であり、男女平等社会が確立しているとはいえない（男女共同参画白書、2010）。男女平等社会を確立していくためには、国民の男女平等意識の高まりや法律、社会システムの改革が必要である。心理学的視点では、とくに男性が女性心理を、女性が男性心理を理解していくことが重要である（Benjamin, 1988）。男女共同参画社会基本法（1999）の5つの骨子のうちでとくに心理学的見解が重視されるのは、「人権の尊重」と「家庭における活動と他の活動の両立」の2点であろう。日本学術会議の男女共同参画の分科会でとくにこの2点が論議され、この2点に関する市民への啓蒙が強調されている（日本学術会議、2011）。実際に男女共同参画について各地域で協議会が開かれたり、あるいはwebで広告をしているが、柏木・高橋（2003）は、ジェンダー心理学の立場から、日常生活での男女平等や人権尊重についての実践の根拠となる正確な知識やそれを実践できるような具体的なプログラムが必要であることをあげている。筆者は、この見解に基づき男女共同参画がどの程度達成できているかの基準や評価が必要であるととらえた。

男女共同参画が重視される状況は、おもに職場、家庭、学校である。厚生労働省（2013）は、ストレス状況の調査から、職場での人間関係が最もストレスが生じやすいことを明らかにしている。SchaubroeckとLam（2004）は、職場において対人不協和を生じさせる羨望（envy）に注目した。羨望とは、二者関係において、自らもたない優れた特質、業績、財産などを他者がもつ時に起こる、それらへの渴望、ないしはその他者がそれらを失うことへの願望と定義されている（Parrot&Smith, 1993）。また、嫉妬（jealousy）とは、三者関係において、他者Aに自分よりも自分の好きな他者のBが関心や愛情を向けていると感じるとき、自分がそれらを占有しようとし、他者Aに対して生じる攻撃的な感情をいう（衣笠, 1999）。パートランド・ラッセルは、羨望は、不幸の最も強力な原因であるといっている（1930）。男女共同参画を推進していく際、職場における男女間の羨望の問題は、大きな支障となりやすい。羨望という語は、意識レベルの不公平や不満という語のみでは理解しにくい。それは、羨望は、無意識レベルの本能（instinct）であるからであろう（Freud, 1905；Klein, 1975）。男女間の無意識レベルの羨望について、Freud（1905）は、ペニス羨望（penis envy）、つまり、生物学的な見解をもとに2歳から3歳にかけての女兒が、自分にペニスがないことに気づきそんなふうにならないうちに生んだ母親を憎み、愛情対象をペニスのある父親へと移行し、男性への憧れや男性への競争心を生むという無意識的な羨望という語を唱え、その後、このペニス羨望は子どもが欲しいという願望や贈り物、人形、金品などの所有のよろこび、あるいは男性への過度な競争心へと変化していくといった。しかし、Schafer（1974）らは、家父長主義のFreudの時代から核家族の時代へと移行し、女性のペニス羨望は消失したととらえている。一方、Levin（1966）は、26名の就業女性と25名の専業主婦を対象にロールシャッハテストを実施し、就業女性は、ペニス羨望をもち競争心が強いことを明らかにしている。また、伊藤（2000）は、20歳以上で60歳未満の男女655名を対象とした性差観（gender conception）に関する調査結果をみて女性の性差観は、男性と比べて性役割（gender role）態度や性役割選択という社会的・文化的側面よりもむしろ生物学的な性差（sex difference）が強いことを明らかにしている。このような結果から、筆者は、職場における男女間の羨望をみていく際、ペニス羨望という無意識レベルの視点からみていくことは重要であるととらえた。

従来から嫉妬に関する尺度作成の研究は多いものの（Bunk, 1982；Mathes&Severa, 1981；White, 1981）、男女間の羨望尺度作成の研究はない。LangeとCrusius（2015）は、10項目からなる羨望尺度を作成している。この尺度は、5項目の良性的羨望（benign envy）と5項目の悪意のある羨望

(malicious envy) で構成されている。筆者は、職場において男女共同参画を推進していく際、女性の向上動機を高め、男性への憧れが生じる良性の羨望を高めることと男性の側が、女性を蔑視したり、劣等感をうえつける悪意ある羨望をなくすことが重要であるととらえている。

そこで本研究では、職場において男女共同参画を推進していくうえで、男女共同参画がどの程度達成されているかが評定できる女性用の良性羨望尺度と男性用の注意すべき羨望尺度の性差羨望尺度を作成することにした。また、既述したように羨望は、本能であるという観点から作成した女性用の良性羨望尺度をもとに現代の女性の心にFreudのいうペニス羨望が潜在しているかを明らかにすることにした。本研究で性差羨望尺度を作成する意義は、職場で各個人の男女間の羨望の程度を自覚してもらい、男女共同参画に努力してもらうためである。また、女性に現代でもFreudのいうペニス羨望が潜在しているとすれば、このことを男性の側が理解してもらおうと男女共同参画がさらに推進できるのではないかととらえたからである。尚、本研究目的の便宜上、職場における性差羨望尺度作成については研究Ⅰとし、女性用良性羨望尺度の内容的妥当性の検討については研究Ⅱとした。

[研究Ⅰ]

1. 目的

就業男女を調査対象に職場における性差羨望尺度を作成する。

2. 方法

1) 手続き

ParrotとSmith(1993)の羨望の定義と中里(1992)の研究結果の羨望を構成する4つの感情(①向上動機、②切望、③劣等感、④自己批判)に基づいて、女性用の良性羨望尺度質問項目と男性用の注意すべき羨望尺度質問項目を作成した。質問項目に対して、「非常にそう思う」の5点から「全くそうは思わない」の1点までの5件法で評定した。

2018年の9月に県内のA銀行の銀行員(男性6名、女性9名)とB銀行の銀行員(男性7名、女性14名)、10月に県内のC工場の従業員(男性61名、女性35名)、合計 男性74名(平均年齢46.51歳、 $SD=5.37$)、女性58名(平均年齢 37.89歳、 $SD=4.21$)に対して「匿名です。職場でのあなたの異性に対する態度や考えを率直にお答えください」と教示して作成した質問紙を筆者が配布して答えてもらった。

2) 倫理的配慮

質問紙に答えてもらった後、調査協力者に自己採点をしてもらい、筆者が、「今、いただいた質問紙は男女共同参画に関する調査であなたの日頃の職場での異性に対する態度や考えをチェックするものです」と説明し、個人で評定をしてもらった。実施する前にあらかじめ銀行と工場の管理者と全職員に「人間関係の調査実施」という目的を伝え、調査協力は任意であること、個人の回答が第三者に知られないことや調査結果を研究目的以外に使わないこと、途中で回答を中止してもよいことのインフォームドコンセントを得て行った。個人評定が終わった後、質問紙を回収した。また、調査後、筆者が「男女共同参画の推進」に関する講演を1時間行った。

3. 結果と考察

女性用の良性羨望尺度項目の15項目、男性用の注意すべき羨望尺度項目の18項目からなる質問紙を男女別に実施し、因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った。MAP基準と対角SMC、および解釈可能性を考慮して因子数を決定し分析を行い、因子負荷量が、.40未満、もしくは複数の因子に.30以上の因子負荷量を示した項目を除外したところ、良性羨望尺度はTable1に示す2因子

12項目が、注意すべき羨望尺度はTable2に示す2因子12項目が最も適切であると判断した。各尺度の各因子の回転前の固有値は、良性羨望尺度が4.22, 3.78であり、注意すべき羨望尺度が3.89, 3.22であった。また、各尺度の各因子におけるCronbachの α 係数は、良性羨望尺度の第1因子で.88, 第2因子で.84を示し、注意すべき羨望尺度の第1因子で.83, 第2因子で.80を示し、許容できる内的整合性が得られた。

女性用の良性羨望尺度の第1因子は、男性を意識して男性の良い部分を取り入れて向上していこうとする内容であることから「向上動機」、第2因子は、男性と比較して仕事と家事の両立、将来の展望、収入、身体の違いなどでうらやましいという気持ちの内容であることから「切望」と命名した。男性用の注意すべき羨望尺度の第1因子は、女性の仕事のあり方や人間関係のあり方について批判している内容であることから「批判」、第2因子は、女性の身体面の劣性を指摘している内容であることから「劣等感の挑発」と命名した。男性用の注意すべき羨望尺度の平均値は、34.01 (SD=8.62) であり、女性用の良性羨望尺度の平均値は、47.55 (SD=9.08) であった。4つの因子構造は、中里(1992)のいう羨望を構成する4つの感情である向上動機、切望、劣等感、自己批判の内容と照合できることから2つの尺度の構成概念の妥当性が検証された。

Table 1 女性用良性羨望尺度の因子分析結果

項目番号	項目	向上動機	切望
		因子負荷量	
2	男性のように仕事が早く、うまくできるようになりたい	.82	.04
4	男性のように人間関係がうまくなりたい	.71	.14
6	男性のように指導力(リーダーシップ)を身につけたい	.65	.02
7	男性のように頭の回転が早くなりたい	.42	.16
3	家事と育児があり、男性はもう少し女性の立場を考えてくれたらなあと思う	.12	.85
5	男性のようにもう少し多く収入があったらなあと思う	-.12	.72
1	男性のように将来の展望があったらなあと思う	.20	.71
8	男性のようにたくましく身体が動けたらなあと思う	.05	.65
9	男性のようにもう少しタフ(元気)であつたらなあと思う	.22	.64
10	化粧や服装にこだわらず男性のようにこざっぱりできたらなあと思う	.03	.50
11	男性のように宴会や会議で言いたいことが言えたらなあと思う	.21	.42
12	世間や職場が男性のように自分の学歴を認めてくれたらなあと思う	.06	.41

因子相関係数：.64**

** $p < .01$

Table 2 男性用注意すべき羨望尺度の因子分析結果

項目番号	項目	批判	劣等感の挑発
		因子負荷量	
1	女性は仕事が遅いので文句を言ってやる	.88	.24
3	所詮、女性は仕事ができないと思う	.85	.21
5	女性はおしゃべりが多く無駄な時間をつかいやすい	.79	.05
7	女性は人間関係がねちねちして関わりにくい	.74	.08
8	女性に仕事の説明をしてもすぐには理解できない	.68	.11
9	女性は、所詮、結婚までしか働かないので仕事に熱がはいらない	.65	.15
10	女性は昇進する気もないので仕事に熱がはいらない	.44	.18
11	独身女性は、プライドが高くて関わりにくい	.41	.23
12	女性とはかく家事や子どものことがあるとって仕事がいい加減になりやすい	.40	.24
2	女性の体力のなさややる気のなさを指摘する	.22	.85
4	体力のない女性が多く、自分でやれないので文句を言う	.26	.79
6	女性には生理日があり、無理な仕事の要求がしにくいので文句を言う	.20	.77

因子相関係数：.74**

** $p < .01$

[研究Ⅱ]

1. 目的

研究Ⅰで作成された女性用の良性羨望尺度の内容的妥当性に関して、社会的役割の差からみた良性羨望の違いと良性羨望の強さからみたFreudのいうペニス羨望の有無を明らかにする。

2. 方法

1) 手続き

(1) 調査1：就業女性と専業主婦の社会的役割の違いによる競争心の強さは、東・鈴木(1991)、Levin(1966)、Tallichiet&Willits(1986)の研究結果から就業女性のほうが専業主婦よりも競争心が強いことが明らかにされている。哲学者のヴォルテール(1734)は、羨望と競争心の意味は紙一重であり、競争心は、才能であり、羨望は、ある契機から心の毒となると述べていることから双方の語は類似する意味がふくまれているととらえられる。そこで良性羨望尺度の意識レベルの内容的妥当性を検討するために就業女性と専業主婦との良性羨望の強さの違いを明らかにすることにした。

2018年の10月に県内の公民館の料理教室に通う専業主婦31名・茶話会に通う専業主婦27名(専業主婦の平均年齢 54.27歳, $SD = 4.44$)と保険会社に勤務する既婚女性23名・健康飲料会社に勤務する独身女性5名・既婚の女性教師15名(就業女性の平均年齢 46.66歳, $SD = 7.24$)に各自の名

前を書いてもらい、良性羨望尺度を実施した。調査対象者と各機関・組織の責任者には同意を得て実施した。教示は、「日頃、夫（専業主婦の場合）、職場の男性（就業女性の場合）に対してうらやましく感じているかを見るものです。率直にお答えください」とした。調査後、自己採点してもらい、筆者が結果を回収し、各機関・組織で筆者が、「男女共同参画」についての講演をした。

(2) 調査2：良性羨望尺度によって無意識レベルのペニス羨望が測定できるかの内容的妥当性の検討をするためにJung (1910) の見解、つまり、刺激語に対して反応する語が遅い場合、刺激語に関連した無意識世界に何らかのコンプレックス (complex) が潜在しているであろうという見解に基づいて言語連想法を実施した。2018年の11月に調査1の専業主婦群と就業女性群のそれぞれの良性羨望尺度平均値を基準に高得点群と低得点群の2群に分け、筆者が各群に言語連想法の実施に協力してもらうことの交渉を行って言語連想法を実施した。既述したFreud (1905) のペニス羨望の定義に基づいて村上 (1984) による標準的で偏りのない刺激語12語とJones (1994) による男根期刺激語6語 (主に棒や尖る物)、性器期刺激語6語 (主に性行為に関する単語) を筆者がI対Iで協力者のそれぞれに発して、その反応潜時を測定した。用いた刺激語は、Table3の通りである。調査協力者と各機関・組織の責任者には同意を得て行った。

教示は、協力者のもつ評価されるのではないかという不安をとるために「今から気楽な連想ゲームをします。知能や知識量を測るものではありません。どのように連想するかを見るものです。正しい答えがあるものでもありません。最初に思いついたことばを1つ声を出して行ってください」とした。誰も入ってこない筆者の研究室で行い、刺激語は、ランダムに音量、リズム、アクセントを一定に保つために筆者がCDに録音したものを再生して呈示した。反応潜時はストップウォッチで測定し、四捨五入して10分の1までとした。結果の信頼性をみるために同じ言語連想法を1週間後に行い、計2回実施した。高得点群は、就業女性7名と専業主婦1名、低得点群は、全て就業女性の7名であった。

Table 3 調査2で用いた刺激語

標準刺激語	早い, 暗い, 悪い, 寒い, 高い, 深い (形容詞6語) 山, 試験, 机, ランプ, 音楽, 川 (名詞6語)
男根期刺激語	棒, かさ, ペン, ソーセージ, 鉛筆, 大砲
性器期刺激語	挿入, 愛撫, キス, なめる, 結合, 抱擁

2) 倫理的配慮

調査1も調査2も調査協力者にインフォームドコンセントを得て行った。また、調査中に途中で中断できることを伝えた。調査1は、個人評定してもらい、それについて質問があれば筆者が答えた。調査2は、結果について聞きたい調査協力者がいれば個人に手紙で答える形態をとり、各群の反応潜時の平均値をもとに早く反応したかどうかを伝え、男性への羨望が強いかわかりだけを答えた。結果が聞きたいという調査協力者は、4名であった。尚、調査2の言語連想後、各自にこの言語連想法を行ったことで傷つくことはなかったかを聞いたところ、むしろ楽しかったと答えた者がほとんどであった。

3. 結果と考察

1) 調査1

Table4に専業主婦群、保険会社に勤務する既婚女性群、健康飲料会社に勤務する独身女性群、既婚の女性教師群の良性羨望尺度の平均値を示し、群間の平均値の差の検定結果を示した。Table4

から就業女性群のほうが専業主婦群よりも良性羨望が強いことが明らかにされた。このことから、東・鈴木 (1991), Tallichiet&Willits (1986), Levin (1966) がいうように働く女性は男性との競争心が強く、日頃より男性の行動や態度に注目していることがとらえられた。就業女性群のなかでもとくに女性教師群の良性羨望が強いことから、学校という職場は、常に男性教師とともに勤務していることもあり、競争心や羨望があおられやすいのではないかと思われる。

下位尺度ごとに群間の差をみると「向上動機」と「切望」の両方において女性教師群が最も高く、次いで「向上動機」は、健康飲料会社の独身女性群であり、「切望」は、保険会社の既婚女性群であった。しかし、専業主婦群は、就業女性群よりどの下位尺度も得点が低く、家庭において夫との競争心や良性の羨望は弱いことがわかった。

Table 4 良性羨望尺度の平均値と群間の差の検定

	専業主婦群 N=58	教師群 N=15	健康飲料 会社群 N=5	保険会社群 N=23	専業主婦群 と就業女性 群との差の 検定	各群間の差の 検定
		(1)	(2)	(3)		
向上動機	10.30 (3.21)	16.36 (4.00)	15.68 (4.81)	15.46 (3.72)	$t=9.62^{**}$	$F(3,100)=3.21^*$
切望	26.22 (5.41)	32.56 (5.71)	30.26 (4.64)	31.61 (5.04)	$t=6.69^{**}$	$F(3,100)=2.87^*$ (1)>(2)*
合計	36.15 (9.66)	48.00 (11.23)	45.35 (8.21)	46.68 (10.35)	$t=7.85^{**}$	$F(3,100)=3.10^*$

注) () 内は標準偏差値を示す

* $p<.05$, ** $p<.01$.

2) 調査2

Table 5 良性羨望尺度高得点群と低得点群との反応潜時平均値の差 (単位/秒)

	標準刺激語		男根期刺激語		性器期刺激語	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
高得点群 $n=8$	3.24 (2.00)	4.11 (3.55)	5.48 (2.85)	5.55 (2.01)	7.22 (4.01)	6.02 (3.56)
低得点群 $n=7$	3.66 (2.48)	3.78 (3.01)	3.98 (3.66)	4.01 (3.48)	5.24 (3.56)	4.44 (4.00)
t 値	0.49	0.27	1.21	1.44*	1.38	1.18

注) () 内は標準偏差値を示す

* $p<.10$.

Table5に良性羨望尺度の高・低2群間の刺激語に対する反応潜時の平均値の差を示した。Table5から2回目の男根期刺激語に対する反応潜時に関して、良性羨望尺度の高得点群のほうが低得点群よりも遅い傾向 ($p<.10$) が示された以外は良性羨望尺度の高・低の2群間で反応潜時の平均値に有意な差がないことが明らかにされた。また、反応潜時の分布は、拡散せず、平均値前後に集中しており、反応語の内容も1回目と2回目の大きな差がないことが示された。このようなことから、現代の女性の無意識世界にはFreudのいうペニス羨望は潜在していないのではないかとということが推察された。GalensonとRoiphe (1976) は、発達的にペニス羨望は女性の心には潜在せず、男根期以前の胎児期にすでに中核的性同一性 (primarily female gender identity) が存在し、その後の親子関係の発達からメタファーとしてペニス羨望が生じているという。この見解を参考にするとペニス羨望は、女性の無意識世界に実態としては存在せず、親子関係を通じた自我の発達過程でペニス羨望

は、あくまでもイメージとして説明される隠喩的な表現であるにとらえられる。しかし、この見解の根拠を示していくためには、本研究では、成人女性を調査対象としたが、今後、青年期女性を対象とした場合はどうかや、良性の羨望尺度の程度をもとにペニス羨望の有無をみたが悪意ある羨望、例えば、男性への敵意や反抗、批判などの羨望の程度をもとにペニス羨望の有無をみていく必要があると思われる。

[総合考察]

本研究の結果は、以下の通りに要約された。(1) 研究Ⅰで男女共同参画の実現にむけて、職場での程度、男女共同参画が達成されているかが評定できる性差羨望尺度の女性用の良性羨望尺度と男性用の注意すべき羨望尺度を作成した。その結果、各尺度は、12項目からなり、各尺度で2因子が抽出された。女性用の良性羨望下位尺度は、「向上動機」と「切望」、男性用の注意すべき羨望下位尺度は、「批判」と「劣等感の挑発」と因子名を命名した。4因子下位尺度ごとの信頼性係数は概ね満足できる値を示し、因子分析の結果から性差羨望尺度の構成概念妥当性が検証された。(2) 研究Ⅱの調査1では、専業主婦58名と就業女性43名に良性羨望尺度を実施した、その結果、就業女性のほうが専業主婦よりも良性羨望が強いことが示され、良性羨望尺度の内容的妥当性が検証された。(3) 専業主婦と就業女性別に調査1の平均値をもとに高得点群と低得点群とに分け、高得点群8名と低得点群7名に言語連想法を実施した。その結果、良性羨望の強い女性の無意識世界にはペニス羨望はないことが示された。しかしながら、本研究において多くの残された課題がある。とくに(1) 調査対象が少なく、結果を一般化していくには、今後、多くの対象に調査を実施して検証していく必要がある、(2) 作成された性差羨望尺度を今後、どのようにして男女共同参画実現に活用していくか、例えば、筆者が行ったように各職場に出向いて性差羨望尺度を実施し、個人評定をしてもらい男女共同参画の意識を高める、あるいは女性用良性羨望尺度得点から男性用注意すべき羨望尺度得点の差を算出してそれをみてその職場の男女共同参画実現度を評定するなどがあげられる、(3) 男性用の良性羨望や女性用の注意すべき羨望についても検討していく必要があるなどがある。

謝 辞

本研究にご協力をして頂いたA銀行、B銀行の皆様、C工場の皆様、公民館に通われる専業主婦の皆様、保険会社と健康飲料会社の皆様、各学校の教師の皆様に深謝いたします。

本研究は、著名な歴史ある臨床に関する学会誌に投稿したところ、Table2、Table3の質問項目内容や刺激語が男尊女卑を誘発させるという理由で不採択となった。著者は、このことは、まさに本質をついている内容にとらえ、公開の必要性を感じた。実際に研究のための研究でなく、調査協力機関から男女平等社会に役立ったと意見をいただいている。

注

- 1) 言語連想法の反応潜時の分布（表内の数値は実数を示す）

[引用文献]

- 東清和・鈴木淳子 (1991). 性役割態度研究の展望 心理学研究, 62, 270-276.
Benjamin, J. (1988). *The bonds of love*. New York; Pantheon. (寺沢みづ ほか (訳) 1996 愛の拘束 青土社)
Bunk, B. (1982). Anticipated sexual jealousy. *Personality & Social Psychology Bulletin*. 8, 310-316.

- Freud, S. (1905). *Drei Abhandlungen zur Sexualtheorie*. Wien; Fischer Verlag. (懸田克射・吉田博次 (訳) (1969). フロイト著作集 5 性欲論篇 人文書院)
- Galenson, E. & Roiphe, H. (1976). Some suggested revisions concerning early female development. *Journal of American Psychoanalytic Association*, 24, 29-57.
- 伊藤裕子 (2000). 成人の性差観が性役割選択に及ぼす影響 心理学研究, 71, 57-63.
- Jones, R. L. (1994). An empirical study of Freud's penis baby equation. *Journal of Nervous and Mental Disease*, 182, 127-135.
- Jung, C. G. (1910). Die Associationmethode. *Die Gesammelten Werke von C. G. Jung*. Band 2. Zurich; Rascher Verlag. (江野専次郎・高橋義孝 (訳) (1970). ユング著作集 第2巻 日本教文社)
- 衣笠隆幸 (1999). 羨望・嫉妬 氏原 寛ら (編) カウンセリング辞典 ミネルヴァ書房 pp. 584.
- 柏木恵子・高橋恵子 (編) (2003). 心理学とジェンダー 有斐閣
- Klein, M. (1957). *Envy and Gratitude*. New York; Basic Books. (小此木啓吾・岩崎徹也 (訳) (1996). 羨望と感謝 誠信書房)
- 厚生労働省 (2013). 平成24年 労働者健康状況調査報告書
- Lange, J. & Crusius, J. (2015). Dispositional envy revisited. *Journal of Personality & Social Psychology Bulletin*, 41, 284-294.
- Levin, R. B. (1966). An empirical test of the female castration complex. *Journal of Abnormal Psychology*, 71, 181-188.
- Mathes, E. W. & Severa, N. (1981). Jealousy, romantic love and liking. *Psychological Reports*, 49, 23-31.
- 内閣府 男女共同参画局 (1999). 男女共同参画社会基本法
- 内閣府 男女共同参画局 (2011). 日本学術会議 男女共同参画分科会 男女共同参画推進の加速に向けて
- 中里浩明 (1992). 嫉妬と羨望の意味構造 神戸女学院大学論集, 38, 129-134.
- 村上宣寛 (1984). 連想基準表の刺激語の分類 心理学研究, 55, 180-184.
- Parrot, W. G. & Smith, R. H. (1993). Distinguishing the experiences of envy and jealousy. *Journal of Personality & Social Psychology Bulletin*, 64, 906-920.
- Russell, B. (1930). *The conquest of happiness*. New York; H. Liverwright. (安田貞雄 (訳) (1991). ラッセル幸福論 岩波文庫)
- Schafer, R. (1974). Problems in Freud's psychology of women. *Journal of American Psychoanalytic Association*, 22, 459-485.
- Schaubroek, J. & Lam, S.S.K. (2004). Comparing lots before and after. *Organizational Behavior and Human Decision Processes*. 94, 33-47.
- 総理府 (2010). 男女共同参画白書 (平成22年度) 大蔵省印刷局
- Tallichet, S. E. & Willits, F. K. (1986). Gender role attitude change of young women. *Social Psychological Quarterly*, 49, 219-227.
- 東京女性財団 (1995). 第4回世界女性会議
- Voltaire (Francois-Marie Arouet) (1734). *Lettres philosophiques*. (林 達夫 (訳) (1953). 哲学書簡 岩波書店)
- White, G. L. (1981). Jealousy and partners' perceived motives for attraction to a rival. *Social Psychological Quarterly*, 44, 24-30.